

みんなでひろげる ちいきのわ

地域連携
事例集





contents

- 01 はじめに
- 02 連携の大切さ
- 用語解説
- 04 地域の連携事例
 - 04 香櫨園ふれあい配食
 - 06 長田わいわいサロン
 - 08 ショッピングリハビリ
 - 10 にじっ子夕やけ食堂
 - 12 なめらかフェ
 - 14 いこいの杜
 - 16 地域のつどい場推進事業
 - 18 モーニングカフェ あい♥あい
 - 20 大日つどいの場 リリー
 - 22 雫の会
- 24 兵庫県社会福祉協議会資料
- 25 神戸市社会福祉協議会資料
- 26 コープこうべ資料
- 27 地域見守り活動を通じた地域連携
- 28 まとめ

はじめに

この「地域連携事例集」は、兵庫県社会福祉協議会と神戸市社会福祉協議会、生活協同組合コープこうべの3者が協働し、編集・作成したものです。

1999（平成11）年、この3者は「市民福祉社会への協働憲章」を締結し、“豊かな福祉文化を育む市民福祉社会の実現をめざして協働の取り組みを進めていくこと”を宣言しました。そして具体的な目標を、

- ①民間福祉の立場でさまざまな生活課題に先駆的に取り組むこと、
- ②介護保険制度で対応できない課題を中心に協働すること、
- ③互いに助け合って生きることの価値を文化にまで高めた市民福祉社会をめざすこと

と定め、地震や台風、水害による被

災地へのボランティア派遣や募金活動、支援情報の交換、福祉学習の場づくりやサロンの協働立ち上げなど、いくつかの取り組みにチャレンジしてきました。

「協働憲章」締結から18年が経過した今、少子高齢化や単身化、格差の固定化などにより、既存の制度やサービスでは解決できないくらしの問題が社会的課題として顕在化してきています。

一方、これらの課題の解決に向き合う取り組みもまた、さまざまな形で模索されています。そのキーワードは、まさに「協働憲章」の精神である「連携」と「協働」。複雑化・多様化した課題に、地域住民の皆さんを中心に、諸団体やグループ、NPO、事業者、生協、社協、行政などが連携し取り組む、多種多様な事例

が生まれてきています。

この事例集では、生協や市町社協が何らかの形で関わっている現在進行形の事例を取り上げ、「取り組みのきっかけ」「プロセス」「関わった人たちの役割」などを、できるだけわかりやすく記述しました。すでに活動をしている方、これから始めたいと考えている方にとって、立ち上げプロセスも含め具体的なヒントがいくつもあるのではないのでしょうか。取り組み事例の横展開の後押しになることを期待します。

また、活動支援を役割とする皆さんにとって、地域との関わり方やさまざまな組織との連携を進める際の“立ち位置”を見極める参考になれば幸いです。



地域での 連携の 大切さ

「支え合い」社会に向けた地域づくり

高齢者世帯や単身世帯、ひとり親家庭が、病気やけがをきっかけに「ごみ出しや買い物がこれまでのようにできなくなったが、近所の人に頼める人はいないし、どうしたらいいだろうか」と困っているという話を聞いたことはありませんか。誰にも相談できずに、課題がより深刻になってから表面化するというケースが、いま大きな社会問題となっています。

暮らし方や働き方、価値観が多様化し、地域や家族、職場の支え合いの関係性が弱まる「無縁社会」の中で、ゴミ屋敷や引きこもりなどに象徴されるような、経済的困窮や社会的孤立による問題が拡大し、従来の福祉課題にとどまらない、さまざまな生活課題への対応が求められています。

一方で、定年退職をした人や、子育てを終えた人などの中には、「自分が少しでも地域の役に立てることがないか」と考える人が増えているのも事実です。住民同士の緩やかな見守りやちょっとした困りごとの支え合いなど、住民同士が「支え、支えられる」という双方向の関係の中で、住み慣れた場所で生きがいを持って安心して暮らすことのできる地域づくりが求められています。

多様な関係者の連携・協働に向けて

このような社会状況の中で、国では地域づくりをめざしたさまざまな施策が展開されようとしています。平成28年7月に設置された「我が事・丸ごと」地域共生社会実現本部では、制度・分野ごとの縦割りを超えて、地域住民や地域の多様な主体が「我が事」として参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えて「丸ごと」つながる地域づくりをめざした施策を打ち出しています。また、介護保険制度においても、住民主体による多様な生活支援サービスの開発に向けて、住民同士が話し合う「協議体」の設置が各市区町村において進められているところです。

「支え合い社会」に向けた地域づくりを進めていくためには、単

に新たな資源を作り出すという視点にとどまらず、「まちづくり」の視点で多様な関係者が住民と同じスタンスで連携して地域づくりを進めていくことが必要です。地域住民や福祉関係者だけでなく、医療・保健・労働などさまざまな分野の多様な主体や資源が重なり合うモザイク画のような地域社会の中で、“縁”や“支え合い”を育み、つないで組み合わせていくための仕組みを、私たちの暮らす地域社会の中で再構築していくことが、いま求められています。



用語解説

■ 介護予防・日常生活支援総合事業（総合事業）

介護保険制度の改正に伴い、保険給付の介護予防訪問介護と介護予防通所介護が、市区町村の日常生活支援総合事業（総合事業）による訪問型サービス、通所型サービスに移行する。住民参加型のサービス等の開発・推進が重要な課題の一つとなり、各市区町村で整備が進められている。また、総合事業以外の住民主体の地域の助け合い、民間企業によるサービス、市区町村の独自事業といった「生活支援等サービス」の充実も重要になる。

■ 生活支援コーディネーター
介護予防・日常生活支援総合事業のガ

イドラインでは「生活支援コーディネーター（地域支え合い推進員）」は、生活支援・介護予防サービスの提供体制の構築に向けて、コーディネート機能（主に資源開発やネットワーク構築）の機能を担うものとして位置づけられる。

■ 協議体

「協議体」は各地域の生活支援コーディネーターを中心に、生活支援・介護予防サービスの提供主体等が参画し、定期的な情報共有および連携強化の場としての機能を持つ。市町村を単位とした第1層、日常生活圏域（中学校区域等）を単位とした第2層等があり相互連携が必要。

■ 地域包括支援センター
地域住民の健康保持や生活安定のた

めに必要な援助を行うための施設。概ね中学校区等の生活圏域ごとに設置されている。（市区町村によって名称や設置単位等は異なる）
主な業務は、①包括的支援事業（介護予防ケアマネジメント業務、総合相談支援業務、権利擁護業務等）、②介護予防支援、③要介護状態等になるおそれのある高齢者の把握等。保健師、社会福祉士、主任介護支援専門員などの専門職が配置されている。

■ 地域ケア会議

地域包括ケアシステムの実現に向けて介護支援専門員（ケアマネジャー）を中心に、地域の介護・保健・医療の専門職、地域住民やインフォーマルなサービスの提供者などの幅広い参加者で、地域のニーズや課題の発見、地域に必

要な資源の開発、地域づくりのための連携促進をはかるための会議。個別ケースの検討を行う機能と地域課題の検討を行う機能とがあり、開催目的によって参加の対象者は異なる。

■ 民生委員・児童委員

「民生委員」は厚生労働大臣から委嘱され、住民の立場に立って相談に応じ社会福祉の増進に努めると同時に「児童委員」を兼ねる。それぞれの地域において、高齢者福祉・児童福祉等に関する多様な役割を担う。

■ まちづくり協議会

地域の組織（町内会・自治会・地域諸団体）が参加し、地域を包括的に運営する「協議会型住民自治組織」を行政が制度的に認定し、地域を代表する組

織・パートナーとして位置づけたもの。行政と地域の諸団体が連携・協働し、地域福祉・子育て・環境・防災などの地域の諸課題に取り組む。制度の名称や設置単位等は行政によって異なる。神戸市では「ふれあいのまちづくり協議会」として「地域福祉センター」を拠点に組織されている。

■ 社会福祉協議会（社協）

社会福祉法の規定に基づき、地域福祉の推進を目的として設置される団体。さまざまな福祉サービスや相談、ボランティア活動や市民活動の支援、共同募金など地域の福祉の向上に取り組んでいる。

■ 生活協同組合（生協）

協同互助の精神に基づき、組合員の生活の文化的、経済的改善向上をはかり、

公共の福祉を増進し健全な社会の確立に貢献する目的で設立される組織体。各生協により、購買・医療・共済・福祉等の主な事業区分の違いはあるが、その主体である組合員とともに、より良い地域づくりを目的としたさまざまな事業や活動を行っている。

■ 地域連携

行政や地域の諸団体が連携して、地域づくりや地域の課題解決をはかること、またはその方法。地域連携の参画主体は内容によりさまざまだが、①地域住民、②地域諸団体（自治会、社協、生協、ボランティア団体、NPO法人等）、③事業者、④行政等がある。

香櫨園ふれあい配食

宅配弁当を活用して、週1回の見守り活動

活動の拠点

- 香櫨園市民館
〒662-0952
西宮市中浜町3-15
☎0798-35-0202
(毎週月曜 13時半～17時)

関わった人たち

- コープこうべ
- ㈱コープフーズ
- 西宮市社会福祉協議会
- 西宮市社協香櫨園分区分
(香櫨園地区ボランティアセンター)

地域の概要

香櫨園浜に流れ込む夙川沿いに広がる閑静な住宅地。西宮市社協香櫨園分区分は12の町から成る。阪神・淡路大震災では北3町の被害が大きく、区画整理が進んだ。自治会活動は活発で、人口は毎年増加。新しいマンションが増え、香櫨園小学校は飽和状態にある。2017(平成29)年2月現在、65歳以上の高齢者世帯は1812世帯。うち独居が757人を占めている。

活動のきっかけ

香櫨園分区分ではこれまで、食事会やサロン活動などを行ってきたが、定期的な訪問や電話などによる安否確認を必要とする声が増えていた。実際に食事会の参加者は年々減少しており、外出困難な人や他人との関わりを望まない人の問題が見えていた。

「関わり合いを望まない人が、定期訪問を受け入れてくれるのだろうか」。見守りの方法を探っているとき、コープこうべの夕食サポート「まいくる」との連携案があがった。2014(平成26)年1月、香櫨園分区分、コープこうべ、市社協の3者で「ふれあい配食についての研究会」を発足。1年以上をかけて、運用のしくみを協議した。ボランティアは学習会を開いて試食をしたり、弁当を製造する㈱コープフーズの工場の見学にも出かけた。㈱コープフーズは「まいくる」の毎日配達のため、使い切りの専用容器を開発。2015(平成27)年4月、香櫨園地区ボランティアセンターを窓口に見守り活動がスタートした。



活動内容とこれから

現在の利用登録者は35人、うち実利用は30食程度。「配食ボランティア」登録者は26人、うち1日の実働は9人ほど。1食につき600円をいただき、収益の一部を運営費と心ばかりのボランティア手当てに充てている。

毎週月曜、コープこうべの配送センターまで「カーボランティア」が弁当を取りに行き、ボランティアセンターで仕分けして14～16時の間に配達する。「配食ボランティア」は会話を通して訪問先の状況を把握しており、「全部食べられた?」「腰の具合は大丈夫?」「娘さん最近どう?」など雑談しながら相手の体調や変化を察している。そのとき聞いた困りごとをボランティアセンターにつなぐことも。弁当は手渡し、声かけが原則で、ご連絡なくお留守の場合などは、民生委員に連絡して確認するなどの体制を取っている。秋には、チラシ配布や周囲への声掛けなどを通して普及促進に努めている。



この活動が生まれたプロセス

お弁当を仲介とした“住民どうしの見守り” ～ボランティア・市社協・生協による研究会で1年かけて論議～

地域での食事会の活動や生協の夕食宅配のサービスといった既存の資源をベースに、三者による協議を重ね、“新しい見守り活動”を生みだした。

ひとり暮らし高齢者の見守りが期待でき、地域住民主体の活動として継続・発展が望める仕組みを、話し合いの中で知恵を出し合い構築。西宮市のふれあい配食による「見守りネットワーク事業」のモデルケースにもなっている。

2013(平成25)年

分区分の話し合いで見守り活動としての「ふれあい配食」の検討を開始。コープのお弁当「まいくる」を使った配食活動のアイデアが出る。

2014(平成26)年

「ふれあい配食についての研究会」がスタート。分区分独自の「地域住民による配食活動」実施に向け、展開方法などを論議。

1月～12月、合計9回実施。
メンバー：分区分役員・ボランティアコーディネーター、市社協、コープこうべ第2地区活動本部・配食担当職員、㈱コープフーズ

分区分役員、ボランティアコーディネーターが参加して「コープフーズ」弁当製造工場の見学会を実施。栄養バランス・健康配慮・衛生管理などについて学習・確認。

配食活動の具体的な実施方法などを検討・準備。ボランティアによる見守り活動用として、使い切り容器に仕様を変更。

2015(平成27)年

1月～10月までに研究会を5回実施

「地域の見守り活動」を趣旨とした「ふれあい配食」活動がスタート。利用者・ボランティアを募集。

活動者の声

元気な顔を見ると、ひと安心

スタートして2年、だいぶ地域に浸透してきたようです。配達時に利用者とお話できると、ひと安心。逆に出来なかった場合は、メモを入れて再訪問することもあります。近所の方から「最近姿を見ない」と聞き、倒れているところを発見、一命を取りとめたケースも。訪問を楽しみにしている方も多く、その方の心配事を聞き取る機会でもあるので、やりがいがあります。ボランティア同士も仲が良く、少しでも地域の役に立ちたいと活動しています。今後、もっと利用者が増えるといいですね。



香櫨園分区分
ふれあい配食担当
たかてる
平山 隆暉さん

長田わいわいサロン

お店の空きスペースで教え合い。知人も笑顔も増える場所

活動の拠点

- コープ長田
〒653-0805
神戸市長田区片山町2-18-17
☎078-691-2661

関わった人たち

- コープこうべ
- コープサークル「長田わいわいサロン」
- 名倉あんしんすこやかセンター（地域包括支援センター）
- 神戸市長田区社協

地域の概要

コープ長田のある片山町は区のほぼ中央、長田神社の門前町である長田神社前地域から東寄りの丘陵地にある。近隣は、地場産業の経済成長とともに大規模な住宅開発によって造成されたが、昨今は人口減少や高齢化が顕著に。阪神・淡路大震災後に新築されたマンションには若いファミリー層も増えたが、昔ながらの顔見知りが多いなど、長年にわたって培われてきた良好な“ご近所関係”は健在。

活動のきっかけ

「この店を、モノを買うだけでなく地域の人が気軽に立ち寄れる場所にしたい」。今までにないコープの店づくりを目指したコープ長田の改装計画。2013（平成25）年、職員や組合員で連絡会議を立ち上げ、月に1～2回話し合いを始めた。

まずは地域を知るために町探検から始め、意見交換。そこで挙がったのが、「地域の人を持っている特技が発揮できる場があれば」「ちょっとした困りごとを解決できたら」という声。この声を「地域の人同士をつなぐ店としてぜひ実現したい」と形にしたのが、店内の空きスペースで住民同士が交流できるつどい場「長田わいわいサロン」と、登録したメンバーが草引きや衣替えなど近隣住民の家事作業を手伝う「くらしの便利サービス」。それぞれ2014（平成26）年から始まった。長田区社協やあんしんすこやかセンターなどと情報共有しながら、活動を続けている。「くらしの便利サービス」はその後、コープ丸山でもスタートした。



活動内容とこれから

毎月第2・4火曜日の10時～11時半、店舗入り口近くで開催するサロン。参加者は、説明を聞きながら手芸を楽しみ、おしゃべりに花を咲かせる。参加は無料、講師役はできる人が誰でも。「私、編み物なら教えられるわ」「あの方、折り紙が上手だそうだから、今度お願いしてみようか」など、参加者やサロンのメンバーがそれぞれ得意なテーマを準備し、交代で教え合う。

時には、ケアマネジャーや見守り推進員などが立ち寄ることも。困りごとのヒアリングや福祉情報の提供も行っている。「誰でもしんどいことは語るの難しいものですが、ここは話しやすい雰囲気がある。そこに専門職が加わることに価値があります」と、活動を支援する職員は話す。

組合員集客室で開いていた「ふれあい喫茶」もサロンと同じ場所に移動し、第1・3火曜日にオープン。「毎週火曜日にはあそこで何かやっているから、ちょっと行ってみようか」と、近所の住民が気軽に立ち寄れる居場所となりつつある。



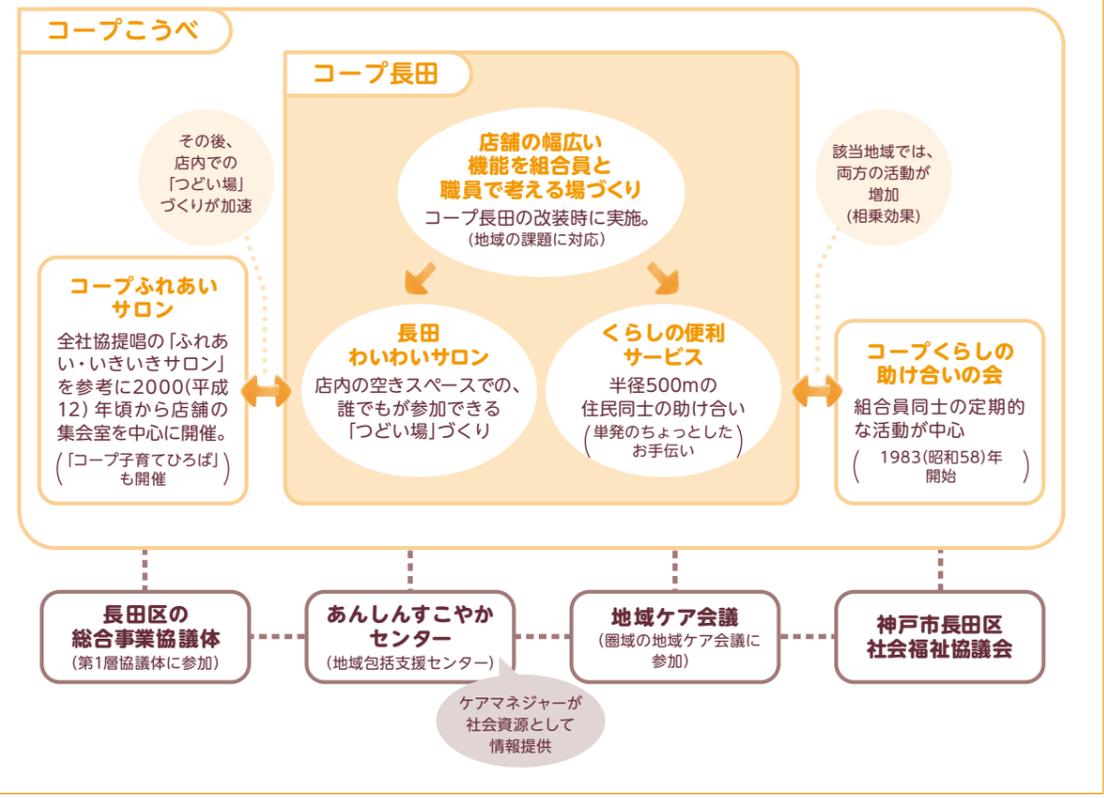
この活動が生まれたプロセス

地域にとび込み「困りごと」の声をキャッチ ～組合員とコープ職員が知恵を出し合い仕組みづくり～

改装を機会に、地域住民・組合員から「地域の困りごと」の声をキャッチ、店舗の多様な機能のあり方についてボランティアと職員とが論議を重ね、二つのポイントで仕組みをつくった。

- ① 店内でのつどい場機能（日常の買物時に、ふれあうきっかけとなるサロンづくり）
- ② 近隣住民同士の助け合い機能（単発のちょっとしたお手伝い）

※あんしんすこやかセンター、高齢者施設等の地域の団体への訪問活動を通じて、「サロン」へのあんしんすこやかセンターからの参加・情報提供や、「くらしの便利サービス」を必要とする人への声掛けなどの協力をいただくようになっている。



活動者の声

手先を使っておしゃべりすれば、 頭も気分もスッキリ!

毎回十数人でわいわいと過ごしています。サークルメンバーは13人ほどですが、講師役はどなたでも。ご高齢の方はテレビが相手になってしまうことが多いので、とにかく家を出て、人と会って、少しでも楽しんでほしいと始めました。話しながら手を動かすと頭も活性化しますし、作品ができあがるので喜ばれます。ここで知り合って、一緒にお出かけするようになった方も。これからも積極的にお声がけして、参加者を増やしていきたいですね。



「長田わいわいサロン」代表
尾島 博子さん

ショッピングリハビリ

“買い物の楽しさ”を、もう一度(買い物支援ボランティア)

活動の拠点

- コープデイズ神戸西
〒651-2111
神戸市西区池上3-3-1
☎078-974-3939

関わった人たち

- コープこうべ
- コープサークル「買い物おたすけ隊」
- 株式会社セラピット
- 光プロジェクト株式会社

地域の概要

コープデイズ神戸西の西側にある池上中央公園をはじめ、大小の公園が点在する池上地区。近くを流れる伊川沿いは、緑の宝庫。田畑なども多く残り、市街地近くにありながら四季折々の自然を享受できる。子育て世帯も多い一方、店舗周辺には築30年を越すマンションも複数あり、住民の高齢化が進んでいる。店舗が位置する「伊川谷あんしんすこやかセンター」のエリアには、「通所介護」の事業所が12か所、「通所リハビリ」の事業所が2カ所ある。

活動のきっかけ

「買い物に不自由されている方をよく見かける。何とかお手伝いできないものか」。店舗を拠点に組合員活動を行うコープ委員からはそんな意見が挙がっていた。2016(平成28)年1月、神戸市西区協議体の会議でコープこうべ第5地区活動本部長が(株)セラピット社長と隣り合わせ、この話をしたところ、「楽々カート®」を用いた「ショッピングリハビリ®」という自立支援プログラムを紹介された。話を持ち帰ると、組合員の気運は一気に高まった。そこで店舗の規模やスペースの広さなどを勘案し、コープデイズ神戸西での導入を検討。 (株)セラピットの経営する介護施設の利用者を店舗まで送迎するモデルができた。ボランティアを募りコープ委員会で説明すると、さっそく希望者が集まった。

カートの取り扱いなどの研修を4回実施し、6月に活動がスタート。

送迎車の運行システムやタイムスケジュールの管理、サポートの介入度など関与者それぞれが試行錯誤しながら、よりよい活動を目指している。



活動内容とこれから

ボランティアは現在13人。コープサークル「買い物おたすけ隊」として店舗に登録し、月4日(※)活動している。施設からの送迎車の到着を出迎え、店内への移動を介助。楽々カート®を使う、車椅子を押す、隣に寄り添うなど状態を見て対応する。できるだけ自身で買い物できるよう手助けは最小限にとどめながら店内を回る。目的の場所に移動する、商品を選ぶ、カートに入れる、支払いをするといった行動自体がリハビリになるうえ、ボランティアとのおしゃべりを楽しみにしている利用者は多い。月1回は店舗の組合員集会室で開かれる「ふれあい喫茶」に合わせて実施。「施設以外の場所で世間話ができるのがうれしい」という声が上がっている。

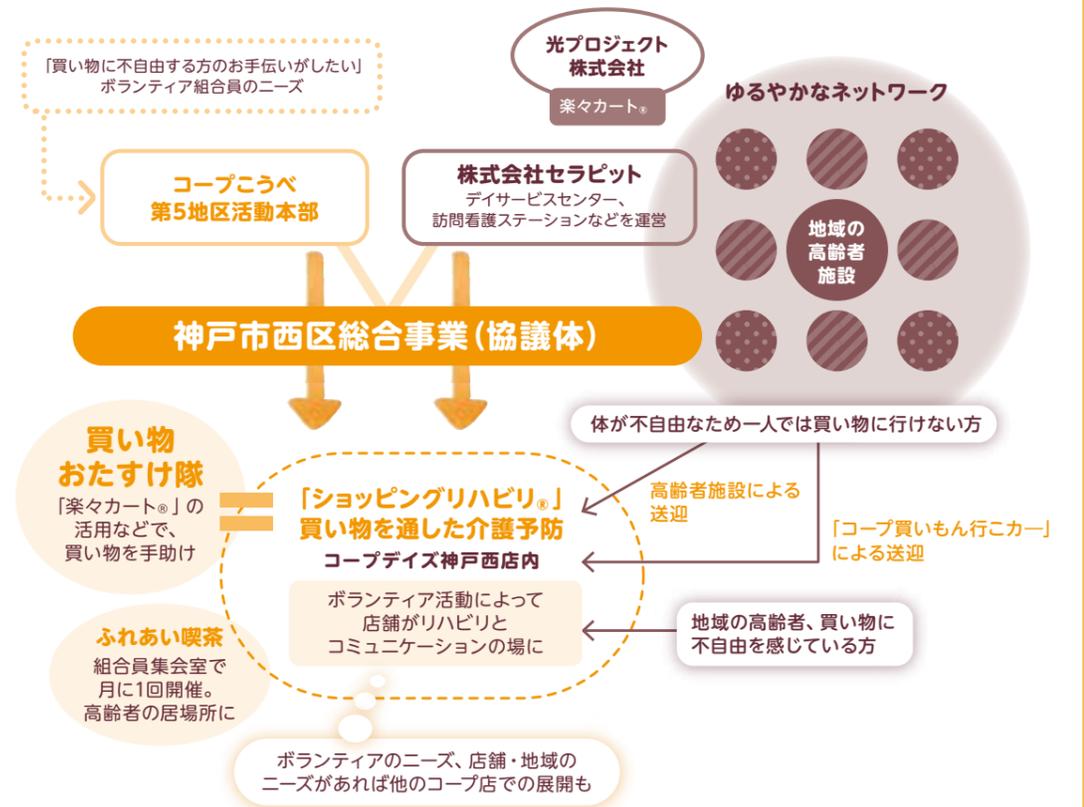
※月2日は(株)セラピットがデイサービスの利用者を送迎。第1・2土曜は「コープ買いもん行こカー」が近隣の高齢者施設3カ所を回って送迎。「コープ買いもん行こカー」は、普段はコープデイズ神戸北町で運用している無料買い物送迎車。事前登録制で、買い物に困っている65歳以上などが利用できる。



この活動が生まれたプロセス

ボランティアと専門職がしっかり連携 ～「協議体」での出会いが新たなつながりと仕組みづくりに発展～

「地域で連携して暮らしの困りごとを解決したい」。共通の課題意識を持った団体が、神戸市西区総合事業(協議体)の会議で同席したことから、取り組みのきっかけが生まれた。コープのボランティアグループと介護事業者が協働で始めた「ショッピングリハビリ®」は、改善を重ね、継続して取り組むことで、地域の高齢者施設などを巻き込んだまちぐるみの介護予防の取り組みに発展している。



活動者の声

楽しい買い物で、素敵な笑顔を増やしたい

最初は、表情も乏しく「あまり興味がないのかな」と思った方も、別人のようにハツラツとされて、「こんなに素敵な笑顔の方なんだな」と。自分自身で商品を選んで、おしゃべりもできる。買い物にはいい刺激があるんですね。「2年ぶりに買い物したわ」「歩行訓練は辛いけど、お店を歩き回るのは楽しい」などのお声が聞けてやりがいを感じます。今は洋服の試着などに余裕がないので、もう少しゆっくり時間が取れたら。よそのお店にも少しずつ広がればいいなと思います。



コープサークル「買い物おたすけ隊」代表 新藤 照美さん

にじっ子夕やけ食堂

サロン運営のつながりから見た地域の課題に挑戦

活動の拠点

- コープ園田
〒661-0953
尼崎市東園田町4-104-1
☎06-6491-0281

関わった人たち

- コープこうべ
- コープサークル「子ども食堂支援隊」
- 尼崎市子ども青少年本部事務局
- 尼崎市社会福祉協議会園田支部ほか、園田地区子育て支援連絡会メンバー
※右図参照

地域の概要

コープ園田がある東園田は、猪名川と藻川が神崎川に合流する手前に位置する中州エリア。昔から2つの川を町境として発展、地域の結束力が強い土地柄となる。地元へ愛着のある人が多く、盆正月には独立した子ども家族が帰省する姿が多く見られる。川を越えた園田地区全体としてはファミリー世帯が多く、子育てに関する関心が高い。区域内には8つの小学校がある。

活動のきっかけ

2014(平成26)年10月、コープ園田店内のスペースで、ふれあいサロンが始まった。コープサークル「ぼこぼこ」とNPO法人愛達の共同運営による。そこに「地域のさまざまな課題解決と一緒に取り組んで行きたいね」と、尼崎市社協園田支部や尼崎市役所、他団体も関心を寄せ、連携への機運が高まった。

約3カ月後の2015(平成27)年1月、一気につながった諸団体によって結成されたのが「園田地区子育て支援連絡会」。貧困や虐待、不登校や引きこもりなどの社会問題が広がる中、子育て情報を共有し活動へつなげようと、フォーラムや勉強会などを始めた。その年の冬休み直前、学校が休みの間に食事がとれない子がいるとの情報が入り、急ぎよ連絡会で協力、冬休み期間中毎日お昼ごはん会の開催にこぎつけた。その経験を生かし、2016(平成28)年4月に「そのっこ夕やけ食堂」を開設。以降、毎週金曜日に開催している。

9月、連絡会2号店としてコープ園田の組合員集会室で始まったのが「にじっ子夕やけ食堂」。コープサークルを中心に運営している。



活動内容とこれから

「にじっ子夕やけ食堂」がオープンするのは、毎月第2・4水曜日の16時～19時。食材は、コープこうべの返品商品等や、食品会社や諸団体からの寄付、住民からの差し入れ、近郊農家の規格外野菜などでまかなう。その日にある食材でメニューを決定。サークルメンバーほか、コープこうべ職員や保護者なども手伝いながら夕食を作り、みんなで食卓を囲む。

参加費は、中学生以下は手伝いをすることで無料、高校生以上は300円。PTAや学校からも信頼されており、心配な児童を連れてくることも。地域に共感を持って受け入れられている。

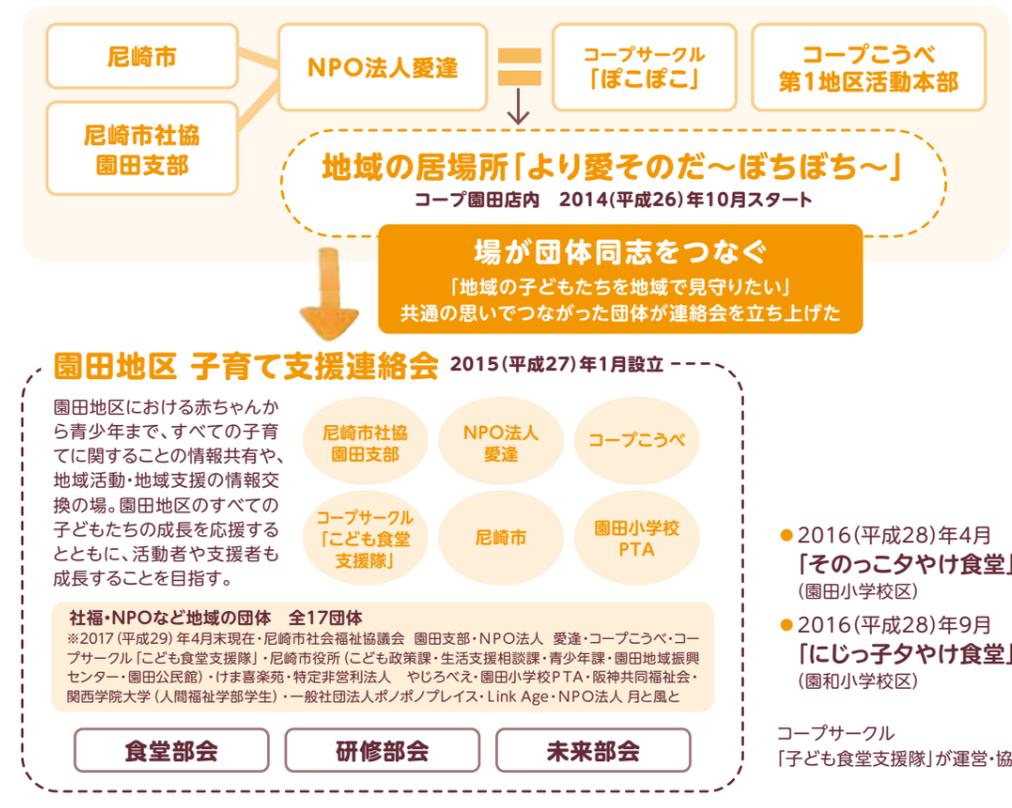
子育て支援の一部として子ども食堂が軌道に乗りつつある今、連絡会は食堂部会、研修部会、未来部会の3部会体制となり、今後のあり方を検討。それぞれの力を持ち合い、強みを生かしあって、協働で課題解決に取り組もうという強い思いを共有しながら、活動している。



この活動が生まれたプロセス

多様なネットワークの力で「子ども食堂」を運営 ～「地域で子どもを見守りたい」切実な願いが連携を育む～

2014(平成26)年10月に、コープのボランティアグループとNPOが、コープ園田店内のコミュニケーションコーナーを使って、居場所づくりの取り組みを開始。場があることで、さまざまな団体同士のつながりが生まれ、2015(平成27)年1月、行政や社協、社会福祉法人やスクールソーシャルワーカーなどによる協議体「園田地区子育て支援連絡会」が結成された。月1回の連絡会では子育て関連の情報交換や課題共有などが行なわれ、子ども食堂をはじめ、園田地区における子育て支援の取り組みが大きく広がっている。



活動者の声

おいしく食べて、大人も子どもと一緒に仲良く

サークルの登録メンバーは30人ほど。ここのほか「そのっこ夕やけ食堂」にも手伝いに行っています。子ども食堂は、みんなが役に立てる居場所。フラリとお菓子を持ってくる人、交通整理をする人、勉強を教える人、一緒に遊ぶ人、料理する人。そこにいてくれるだけでもいい。若いお母さんたちが、担い手にもなっています。街で会った子が、あいさつしてくれます。かわいいですね。地域全体で子どもを見守ろう、そんな雰囲気が広がっていることが一番うれしいです。



「こども食堂支援隊」代表
上田 由美子さん

三木市社協「なめらかフェ」

空き店舗でシニアの知識と経験を生かした若者の居場所づくり

活動の拠点

- なめらかフェ
〒673-0431
三木市本町2丁目11-8
(ナメラ商店街内)
- 三木市社会福祉協議会
ボランティア活動プラザみき
〒673-0403
三木市末広1-6-46
市民活動センター内
☎0794-83-0090

関わった人たち

- 三木市社会福祉協議会
- アクティブ美輝
(ボランティアグループ)
- 商店街自治会のみなさん
- 三木市(観光部局)

地域の概要

ナメラ商店街は、上の丸の城跡の崖下、美嚮川との間に発展した町「滑原町」に位置する。昭和40年代頃までは賑わっていたが、現在では人口減少と高齢化が進んでいる地域である。



活動のきっかけ

引きこもりがちな若者の社会参加の場でもある「なめらかフェ」の活動のきっかけは、成人の息子がいる母親から市社協に寄せられた、「学校卒業後に働けず、行き場もなく家に閉じこもっている」という相談だった。市社協は、同じような悩みを持つ親やNPO、ボランティア等とともに「協働ミーティング」を開催し、発達障害のある子どもの「就労」や「学習」について悩む親たちの悩みや寄り添える支援について話し合った。その中で、いろいろな理由で社会参加の難しい人が、安心して集える居場所が必要であることが見えてきた。

並行して市社協が手がけたのが、シニア層を対象にしたボランティア講座「アクティブシニアカレッジ」である。同講座では、2年間かけて地域社会の現状などを学び、具体的な活動プログラムを検討。そこで出会った参加者10人が、「自分たちの力を結集してできることはないか」と話し合い、平成25年12月にアクティブ美輝を立ち上げた。

アクティブ美輝では、まずは「引きこもりがちな人は親亡き後にどうやって生活していくのか」という深刻な声に応えようと、社会生活が困難な方の居場所づくりに焦点をあて、活動を進めることにした。メンバーそれぞれが得意分野を発揮して準備に取り組み、商店街に市が所有する空き店舗を借りて、平成26年9月に「なめらかフェ」をオープンした。



活動内容とこれから

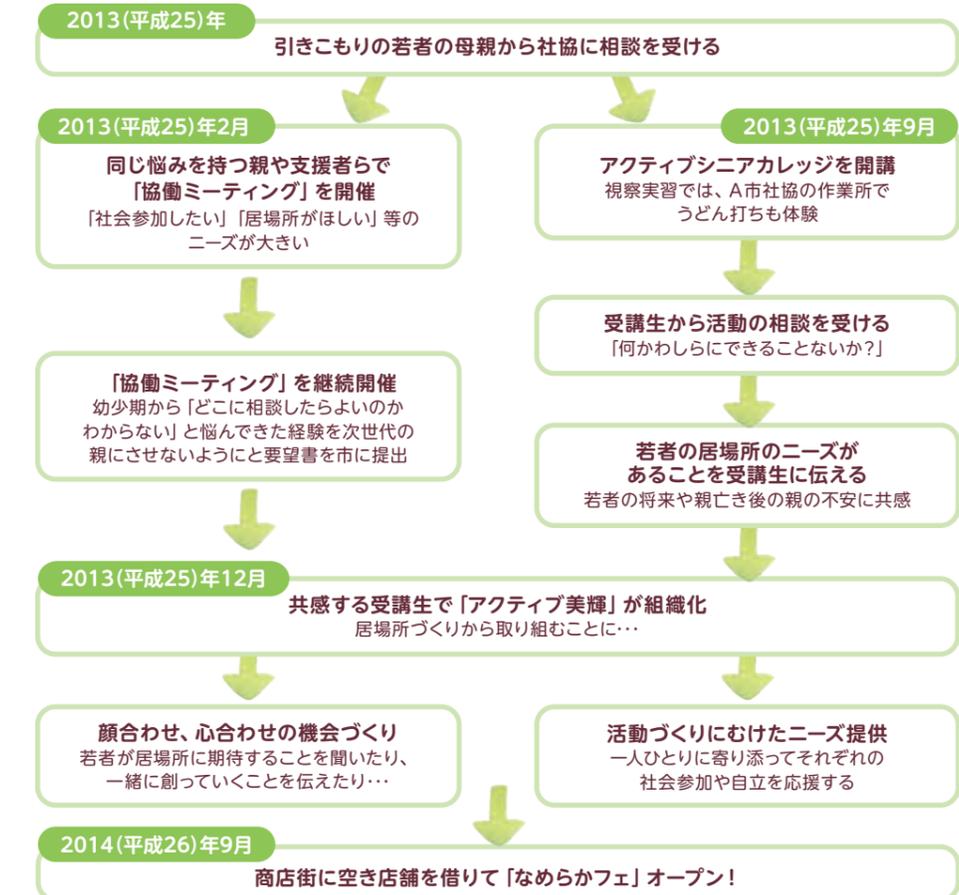
「なめらかフェ」は、旧市街地にある「ナメラ商店街」で毎週土曜日に営業している。オープン以降、「なめらかフェ」には居場所を求める若者が集まってきている。当初は人と話をすることが苦手だった人も、今ではメンバーと会話しながら慣れた手つきでうどんを打ち、接客もできるようになってきた。今後は、カフェ以外に農作業を盛り込むなど、集える日を増やしていけるように検討している。

徐々にカフェを訪れる固定客もできはじめ、運営を手伝う女性ボランティアも増えてきた。代表の北村忠彦さんは「地域のお節介な人として彼らと普通に接することが、自分たちにできること」と語る。今後もアクティブ美輝では、若者の自立生活を温かくサポートしていく。

この活動が生まれたプロセス

当事者と新たな担い手との橋渡し

三木市社協のワーカーは、「若者の引きこもり」という専門職では対応しづらい問題を、住民が「みんなの問題」として意識できるように組織化を図ってきた。なめらかフェの開設前から現在に至るまで、メンバー間の話し合いに参加し、見守りながら、必要な投げかけや情報提供を行っている。



活動者の声

若者の自立への思いに寄り添って

「福祉の専門職でもジョブコーチでもないわしらにできることって何なのか？」活動がスタートし、自問自答をくり返していた時に社協のワーカーから言われた一言が「近所のお節介なおっさんで関わる。それが何よりも大事」。胸のつかえがとれた一言でした。現在、なめらかフェに通う若者の3名が、パートなど雇用形態はいろいろですが、働き始め、社会進出しようとしています。今後もそれぞれの自立への思いに寄り添い、活動を継続していきたいと思っています。



「アクティブ美輝」代表
北村 忠彦さん

豊岡市但東町高橋地区総合拠点「いこいの杜」 空き店舗を活用した集落の多機能拠点づくり

活動の拠点

- 高橋地区総合拠点
「いこいの杜」
豊岡市但東町久畑954-1
☎080-8305-2628
- 豊岡市社会福祉協議会
〒668-0045
豊岡市城南町23-6
豊岡健康福祉センター内
☎0796-23-2573

関わった人たち

- 豊岡市社会福祉協議会
- 高橋地区の地域住民のみなさん
- NPO法人セルフサポートいずし
(地域活動支援センター)
- 豊岡市(まちづくり・高齢者福祉・
障害者福祉各部署)

地域の概要

豊岡市の南東部に位置する但東町高橋地区は四方を峠に囲まれており、冬になると非常に積雪の多い地域である。昔は農業や炭焼が盛んであったが、現在では若い世代を中心に地区外で勤務するケースが多い。近年では、人口減少・少子高齢化の進行・一人暮らし高齢者の増加などにより、さまざまな生活課題が顕在化してきている。



活動のきっかけ

約5年前、高橋地区の中でも、学校、郵便局、地区公民館、駐在所等、多くの社会資源が存在する久畑区において、地区唯一の生鮮食品店が廃業した。以前より、豊岡市社協但東地区センターでは、「買い物困難者の増加」「急速な高齢化と過疎化」「障害者の社会参加と就労」を地域課題として考え、それらに対応するシステムづくりに向けて、具体的な事業を展開する拠点づくりを模索していた。

そんな折、廃業した店舗の所有者から、「地域のために店舗を活用してほしい」と平成26年に市社協に申し出があった。市社協では早速、住民へのヒアリングとワークショップ(計3回)を実施。ワークショップでは、地域にどんな課題があり、どんな取り組みが必要とされているのか、そのために空き店舗をどう活用できるかを住民同士で話し合った。その結果、気軽に立ち寄り交流ができ、かつ自らも料理や食材の提供等を通じて運営側として関われる“食”をテーマとした拠点として活用することとした。名称は「いこいの杜」。建物の向かい側に神社のけやきがあり、自然豊かな環境で、人々が集う場でありたいとの思いが込められている。



活動内容とこれから

「いこいの杜」のオープンは平成27年12月20日。運営は地域住民に加え、障害者支援に取り組むNPO法人セルフサポートいずしと市社協が担う。当面は喫茶コーナーや地域食堂の運営をはじめ、料理教室などのイベント開催も検討している。運営に携わる地域サポート推進員の野末八千代さんは、「開設当初は10人程度だった来店者が、現在では20人程度にまで増えた」と話す。

「そのうち約7割はほぼ毎日顔を見せてくれる。いこいの杜が地域の人にとって気軽に立ち寄れて誰かと話ができる“拠り所”として知られてきたと感じる」。今後は、これまでの活動の振り返りと今後の進め方について話し合いたいと考えている。住民自らが考える土壌がすでに根付き始めているようだ。「高橋に暮らす人たちの心の拠り所」という、ワークショップでつくった目標に向かって、さらなる取り組みが広がることが期待されている。

この活動が
生まれた
プロセス

“支え合い”に向けた 地域住民の主体形成

豊岡市社協のワーカー(地区担当職員)は、「今取り組まないと地域を取り巻く環境はますます悪くなる」という危機感のもと、住民有志や他市町の社協職員とのつながりを活かして拠点づくりに取り組んだ。その中では、単に拠点を開設することだけでなく、住民が「自分たちの場」として活動できるよう、「住民の主体形成」を常に意識して支援を展開してきた。



西宮市「地域のつどい場推進事業」

官民共同で進める地域の居場所・支え合いづくり

活動の拠点

- まちcaféなごみ
〒663-8132
西宮市東鳴尾町2-16-19-102
☎0798-20-2333
(NPO法人なごみ)
- 西宮市社会福祉協議会
〒662-0857
兵庫県西宮市中前田町1-23
地域共生館ふれぼの
☎0798-61-1361

関わった人たち

- 西宮市社会福祉協議会
- 鳴尾東の地域住民の皆さん
- NPO法人なごみ
- 西宮市(福祉部局・住宅部局)

地域の概要

西宮市では、地区社協を中心に、公民館や市民館などの公共施設を利用した「ふれあいいきいきサロン」「子育て地域サロン」が取り組まれている。



活動のきっかけ

西宮市では、従来の公共施設等で行われている「ふれあいサロン」とは異なり、自宅を開放して近所の人が集まれる「つどい場」や、介護者家族や当事者を支えるための「つどい場」等、身近で気軽に集え、当事者の支援にもつながる多様な交流の場が増えつつあった。これらのつどい場の意義や効果に着目した市や市社協では、それぞれが策定する地域福祉計画や地域福祉推進計画において、つどい場の普及を目標に掲げ、普及方策の検討を行ってきた。

その後、市の福祉部局や住宅部局、社協が合同で協議を重ねた結果、「地域のつどい場推進事業」が予算化され、社協が受託。一般市民向けの普及フォーラムや、つどい場の実践者や関心のある市民を対象にした「つどい場交流会」を開催してきた。

さらに、事例集の発行やつどい場のネットワーク組織の立ち上げを行うとともに、初期費用の助成や、住宅改修および運営支援のための建築士や先輩実践者の派遣など、自主的で継続的な活動ができるよう、多様な支援策を打ち出している。今後は見守りや生活支援、多世代交流など、多様性のあるつどい場の創設を目指し、これまでの検討メンバーにコープこうべも加わった新たな研究会による検討が進められている。



活動内容これから

つどい場の一つ、同市の鳴尾東地域にある「まちcaféなごみ」は、地域住民が主体となって運営する常設型のつどい場だ。1日平均60名が利用し、特に男性の利用が多いのが特徴となっている。

同地区では、まちづくりに関わりたい若い活動者と地域住民との出会いから「鳴尾東ふれあいまちづくりの会」が平成25年度に発足。地域の空き民家を活用して、お年寄りや子どもたちの居場所としてつどい場「和」(週2回)を開設した。その活動展開の中で、常設型の地域活動拠点や多様な地域課題への対応の必要性が見えてきたことから、NPO法人なごみを設立。新たな拠点「まちcaféなごみ」を開設し、地域の諸団体や専門機関・大学等と連携していきながら、市社協や行政とも共同し地域住民のつながり作りや新たな支え合い、そして地域活性に向けた取り組みを始めている。

この活動が
生まれた
プロセス

住民の思いをかたちにしたつどい場の普及

西宮市社協では、平成25年度より「地域のつどい場推進事業」を西宮市より受託し、地域活動者や市民への「つどい場」の理解や普及に取り組んできた。また、平成27年度より社協に配置した生活支援コーディネーターの業務に位置づけ、「まちcaféなごみ」をはじめとした多様なつどい場の活動支援を進めている。



モーニングカフェ あい♥あい

中学生の想いを形に あたたかい心が通いあう『居場所』誕生

活動の拠点

- 魚崎南地域福祉センター
〒658-0025
神戸市東灘区魚崎南町2-9-4
☎078-413-2354
(毎月第2土曜 10時～12時頃)
- モーニングセット……200円
飲み物のみ……100円

関わった人たち

- 魚崎南ふれあいのまちづくり協議会
- 魚崎南部地区民生委員児童委員協議会
- 魚崎中学校
- 神戸市東灘区社会福祉協議会

地域の概要

東灘区の南部に位置し住吉川の両岸から東は天井川、阪神電鉄の南側に位置する。魚崎郷の酒蔵が立ち並ぶ地域だが、震災後は倒壊した蔵の跡地に大型マンションや公営住宅が立ち並び、旧住民と新住民が混在する地域。



活動のきっかけ

魚崎中学校では「ハートプロジェクト」というボランティア活動が発行されており、担当の先生から「中学生も高齢者に関することで力になれないか」と相談があった。

中学校がある地区の民生委員・児童委員とニーズや課題を出し合い、「同じ地域で生活している高齢者と中学生がお互いを気にかけて、声をかけ、助け合える関係づくり」を目的に「居場所」を開催することとなった。

場所は地域福祉センターを活用し、高齢者だけではなく地域の障害者や子育て世代にも来ていただきたいという意見から、ふれあいのまちづくり協議会にも協力をお願いをし、実施に向けた会議を3回開催した。中学生が何を感じ、何を知らしてもらいたいのかなど、それぞれの役割や準備等を話し合った。



平成24年11月、ふれあいのまちづくり協議会が主催で、モーニングカフェあい♥あいを開催することとなった。

活動内容とこれから

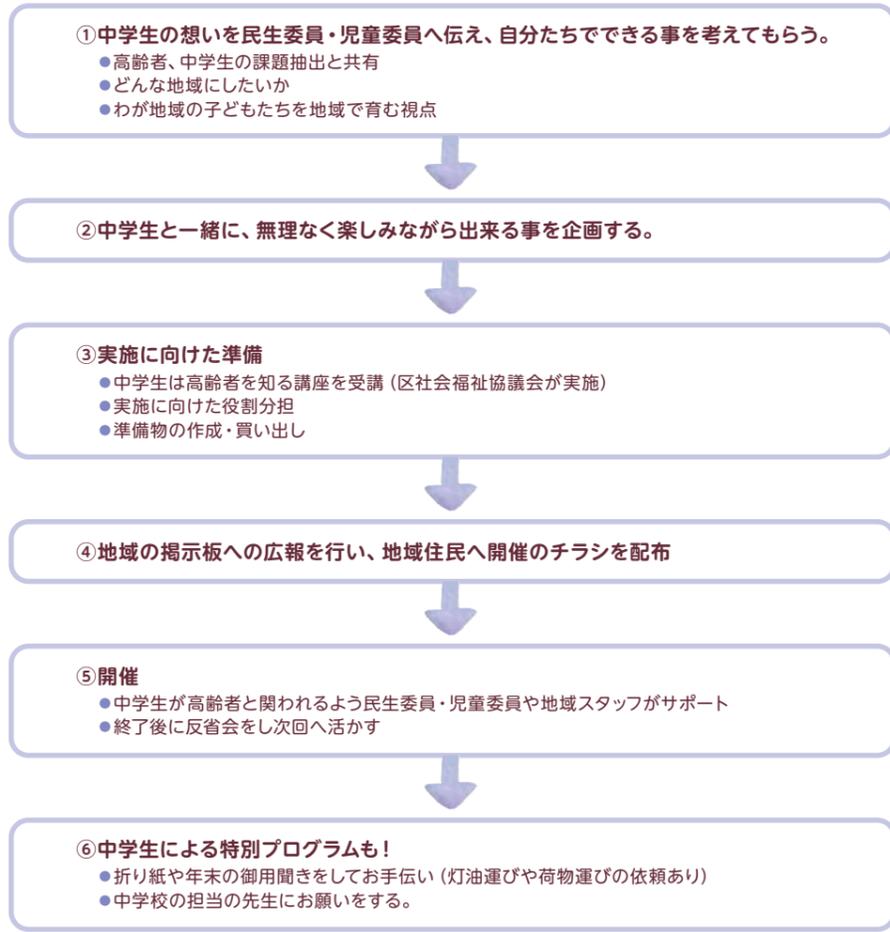
「おはようございます！」中学生の明るく元気な声に迎えられ笑顔で入ってくる高齢者。受付にいる中学生にスタンプを押してもらい、メニューを言って支払いを済ませます。部屋に入るとホール担当の中学生が着席する高齢者をさりげなくサポートしている。注文カードを受けとりオーダーを通す。飲み物は民生委員が準備し、パン焼きや盛り付けは中学生が行っている。セットできたものをホール担当の中学生が「お待たせしました」と高齢者のもとへ運ぶと、「ありがとう」と会話が交わされる。中学生と高齢者の視線があい微笑みあう。毎回40人ほどが集まる会場は、笑顔の花が咲き、終始なごやかな雰囲気に包まれている。

中学生は卒業していくが、地域で出会った時にはあいさつをし、声をかけあえる関係がスタッフや参加者とできている。今後は、障害者や親子連れの参加を促していきたい。

この活動が生まれたプロセス

同じ地域で暮らす中学生を大切な地域活動者に

中学生の想いを地域の中でどのように表すか。地域に根付いていくには、無理のない形にする必要がある。



活動者の声

地域住民が“出会い、知りあい、ふれあう場”としてオープンしました

魚崎中学校(魚崎ハートプロジェクト委員会)の生徒のかわいい接客に、皆さんニコリされています。今年で5年目を迎え、地域にも定着してきており、今後も明るく楽しく、おしゃべりできる居場所づくりとして続けていければいいなあ、と思っています。

中学生の声

「接客の時に、ありがとうと言葉をかけてもらってとてもうれしいです。」
「部活もあって忙しいけれど、月に一度のこのお手伝いが楽しいです。」



ふれあいのまちづくり協議会副委員長 田中 幸子さんと活動者、中学生、先生

大日つどいの場「リリー」

元喫茶店の店舗を借りて、地域の居場所がスタート

活動の拠点

- ボランティアグループあじさい会
〒651-0063
神戸市中央区宮本通3丁目1-5
(宮本地域福祉センター内)
☎078-251-3751
- 活動場所：大日商店街
元喫茶店「リリー」
神戸市中央区大日通4丁目
毎月第2・4金曜日 13時～16時

関わった人たち

- ボランティアグループあじさい会
- 宮本ふれあいのまちづくり協議会
- 宮本地区民生委員児童委員協議会
- 宮本婦人会
- 新神戸あんしんすこやかセンター
- 神戸市中央区社会福祉協議会
- 公益財団法人神戸YWCA
- NPO法人みちるべ神戸

地域の概要

中央区の東部、灘区との境にある住宅地域で、中央区全体の高齢化率23.8%に比べ、24.8%と高齢化率の高い地域である。宮本公園内にある地域福祉センターを中心に、ふれあい給食会やふれあい喫茶、健康麻雀など地域活動が行われている。また、見守りが必要な高齢者110名に対し、47名のボランティアが友愛訪問活動を実施している。一方、地域にある大日商店街はシャッター街となっており、生鮮食品の購入は移動販売や少し離れたスーパー等へ行かなくてはならず、地域福祉センター以外に地域活動の拠点が少ないといった課題がある。



活動のきっかけ

平成26年11月、「高齢者が安心できる居場所をどこにどのように創るか」というテーマで、中央区宮本地域ケア会議を開催した。地域の民生委員・児童委員、友愛訪問ボランティア、地域で開業する医師、歯科医師、薬剤師、区社協、行政職員が参加し、ワークショップ形式で検討を行った。高齢化率が高く、地域活動が盛んだが、活動の拠点が地域福祉センターしかなく、目的がなくても気軽に集まることができる居場所が必要という意見が出る。

後日、営業する店舗が少なくシャッター街となっている大日商店街で、元喫茶店「リリー」のオーナーから空店舗を利用しても構わないという申し出があった。

「リリー」の立地条件や、店舗がそのままあるということを活かし、「気軽に立ち寄れる居場所」として、大日つどいの場「リリー」を平成27年7月より実施した。



活動内容とこれから

月2回（第2・4金曜日）13時～16時に、100円でお茶とお菓子を提供する地域の新たな居場所として実施している。基本的に誰が参加してもいいため、地域の高齢者だけでなく、看板があったので立ち寄ったという人や、子ども連れ、障がい者が参加することもある。

活動の担い手は、きっかけとなった地域ケア会議に参加した民生委員が中心だが、新たな担い手を発掘するため、中央区社会福祉協議会と連携し、3回シリーズで小地域ボランティア講座を開催した。

地域で活動する公益財団法人神戸YWCAや、NPO法人みちるべ神戸（障がい者事業所）にも協力を求め、講師として参加いただくとともに活動への協力を求めた。その結果、人数は少ないが新たな担い手が誕生することにつながった。

今後も、このように地域住民と地域で活動する団体とをつなげていくことで、あらたな展開が生まれることが期待できる。

この活動が生まれたプロセス

誰もが気軽に立ち寄れる地域の居場所を元喫茶店の店舗で実施

地域ケア会議の場で、高齢化率が高く、地域活動が盛んだが、活動の拠点が地域福祉センターしかなく、目的がなくても気軽に集まることができる居場所が必要という意見を基に、元喫茶店の店舗を活かして、地域にあるさまざまな団体と連携し、誰もが気軽に立ち寄れる地域の居場所として実施。

2014(平成26)年11月

地域ケア会議の場で、高齢化率が高く、地域活動は活発だが、気軽に立ち寄れる居場所がないことが課題ということが共通理解される

2014(平成26)年12月～

地域ケア会議に参加した民生委員を中心に、気軽に立ち寄れる居場所についての検討

2015(平成27)年6月～7月

元喫茶店店舗を借りて、新たな居場所「大日つどいの場「リリー」」がスタート
プレオープン(平成27年6月) 本格実施(平成27年7月～)

2015(平成27)年11月～2016(平成28)年3月

新たな担い手発掘のため、地域で活動する公益財団法人神戸YWCAや、NPO法人みちるべ神戸(障がい者事業所)とも連携し、3回シリーズで小地域ボランティア講座を開催



～現在

地域のさまざまな団体と連携して、誰もが気軽に立ち寄れる居場所として実施

活動者の声

地域に明るく楽しい居場所ができました。

「いつまでも安心して暮らせる地域づくり」を目指し、高齢者の居場所・地域の方全てが集える場として、平成27年6月に神戸市中央区大日4丁目の商店街にある元喫茶店の場所をお借りしてオープンしました。今年で3年目を迎えます。開催日は毎月第2、第4の金曜日の午後で、参加者は平均30数名です。毎回の集いの場は暖かく笑顔が溢れています。コーヒー、紅茶等にお菓子をいただき、おしゃべりに花が咲きます。多くの方々の支えや連携があり、明るく楽しい場になっています。



ボランティアグループあじさい会 代表 川合 章子さん

栗の会 ～ルーム de おいしん歩～

「みんなでお昼ごはんを!」の一言から生まれた憩いの場

活動の拠点

- あんしんすこやかルームひだまり
〒654-0141
神戸市須磨区竜が台3丁目6-9-202
☎078-795-1940
(第4月曜日 11時～13時頃)

関わった人たち

- 自治会
- あんしんすこやかルーム「ひだまり」
- 神戸市須磨区社会福祉協議会

地域の概要

約40年前に街びらきされた名谷駅西側に広がるニュータウンエリア。集合住宅が多く広がり、地域福祉センターを拠点にふれあいのまちづくり協議会、自治会、住宅管理組合、老人クラブ、婦人会、民生委員児童委員協議会といった地縁団体の方々が中心となり、さまざまな地域活動が行われている。総人口(竜が台1～7丁目) 6,705人のうち、65歳以上の人口が2,772名、高齢化率が41.3%と高齢化が進んでいる。



活動のきっかけ

竜が台地域では、地縁団体の方々が中心となり、さまざまな行事が行われている。

また、あんしんすこやかセンターのランチとして市営住宅の住戸にあんしんすこやかルームが設置され、見守り推進員が配置されている。高齢者の身近な相談窓口であると同時に、地域住民と一緒に、住民どうしのつながりについて考えながら、さまざまなコミュニティづくりを行っている。

ある高齢者の方が、「一人きりで食事をとるのはさびしいのよね」ともらされることがあった。地域福祉センターまでは坂道となっているため、そこまで行くことが大変であったり、高齢化が進むなかで日中独居の世帯が増えていることもあり、気軽に集えて交流のできる場所を提供できないかと考えたことから、この活動がスタートした。



活動内容とこれから

毎月、第4月曜日のお昼に、近隣住宅の住民20名程が、あんしんすこやかルームへ集ってこられる。そこで、普段一人では食べることのないお寿司やお弁当などの出前をまとめて注文し、楽しくお食事をされている。

見守り推進員は、出前の注文等を代行し、注文をされたお食事の実費を参加者から徴収している。

和気あいあいとした雰囲気の中、「一人でいると昼食を食べるのも煩わしくて…」 「みんなで一緒に食べると食欲がわくわ」などの明るい声が響く。

「来月は何にしようかしら?」と次のメニューを決める時間も参加者にとって、楽しいかけがえのない時間となっている。普段の生活では捨ててしまうような、色々なチラシを見ながら楽しそうにお話をされている。

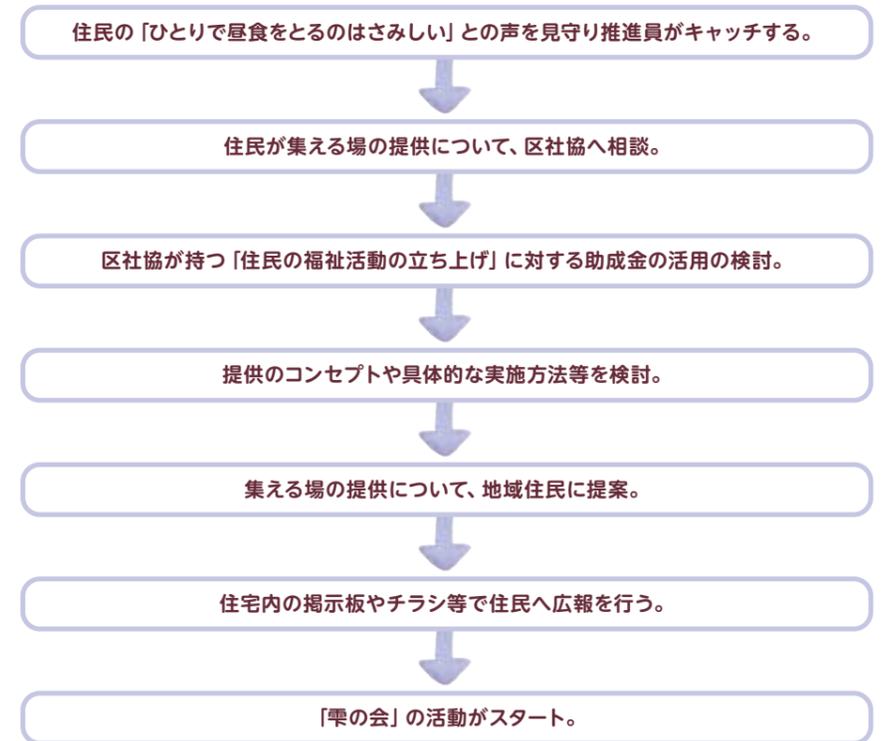
きちんと食事を食べることにより高齢者の方の栄養改善、閉じこもりがちの方の外出支援にもつながっている。休まれている方がいると「〇〇さんは今日どうされているのかしら?」と気に掛け合ったり、「最近、〇〇さん見ないわね…」等、相互の見守り活動にもつながっている。今後もゆるやかに支援を行いながら、活動を進めていく。

この活動が生まれたプロセス

始りは何気ない一言から。なんでもないような活動が、地域住民の心のオアシスに

住民の何気ないニーズをキャッチしたことからはじめられたこの活動であるが、日中独居の高齢者の閉じこもり防止や栄養改善等さまざまな効果が生まれている。

「私は場所を提供しているだけです」と見守り推進員の福井さんは語る。何気ない一言への寄り添い、ちょっとした活動、そういったひとつひとつの積み重ねが、地域住民のかけがえのない居場所を生み、それがさらに栄養改善・閉じこもり防止・相互見守りといった効果にもつながっている。



支援者の声

参加される方全員がボランティアです。

参加者が一丸となって運営しています。毎回のメニューについても「これ、おいしそうじゃない?」とチラシを片手に笑顔で来室され、おしゃべりしているうちに、いつの間にか決まっています。当日も、誰とはなくお茶の準備・配膳下膳・洗剤・ゴミの持ち帰り等を行っており、「する人」「される人」ではない、支え合いの関係のなかで、楽しくかけがえのないひとときを過ごされています。今後も、参加者であり支援者でもある一人として、活動を見守っていきたいと考えています。



あんしんすこやかルームひだまり見守り推進員(SCS) 福井 和子さん

認め合い ともにつながり 支え合う みんなでつくる ひょうごの福祉

兵庫県社会福祉協議会は、「県内の地域福祉を進める力を結集し、私たちがめざす福祉社会づくりを進めること」を使命として、県内の幅広い団体・個人と連携した取り組みを進めています。

平成24年度から、つながり・支え合える社会の実現に向けて、「ストップ・ザ・無縁社会」全県キャンペーンを展開しています。



認め合い・つながり・支え合い 福祉のまちづくり



県内の各市町社会福祉協議会においても、「福祉のまちづくり」に向けた多様な活動を展開しています。

ブロック	社協名	電話番号
阪 神	尼崎市社会福祉協議会	06-6489-3550
	西宮市社会福祉協議会	0798-34-3363
	芦屋市社会福祉協議会	0797-32-7530
	伊丹市社会福祉協議会	072-779-8512
	宝塚市社会福祉協議会	0797-86-5000
	川西市社会福祉協議会	072-759-5200
	三田市社会福祉協議会	079-559-5940
	猪名川町社会福祉協議会	072-766-1200
東播磨	明石市社会福祉協議会	078-924-9105
	加古川市社会福祉協議会	079-424-4318
	西脇市社会福祉協議会	0795-22-5400
	三木市社会福祉協議会	0794-82-4043
	高砂市社会福祉協議会	079-443-3720
	小野市社会福祉協議会	0794-63-2575
	加西市社会福祉協議会	0790-42-8888
	加東市社会福祉協議会	0795-42-2006
	多可町社会福祉協議会	0795-32-3425
	稲美町社会福祉協議会	079-492-8668
播磨町社会福祉協議会	079-435-1712	

ブロック	社協名	電話番号
西播磨	姫路市社会福祉協議会	079-222-4212
	相生市社会福祉協議会	0791-23-2666
	赤穂市社会福祉協議会	0791-42-1397
	宍粟市社会福祉協議会	0790-72-8787
	たつの市社会福祉協議会	0791-63-5106
	市川町社会福祉協議会	0790-26-1988
	福崎町社会福祉協議会	0790-23-0300
	神河町社会福祉協議会	0790-32-2303
	太子町社会福祉協議会	079-276-4111
	上郡町社会福祉協議会	0791-52-2910
但 馬	豊岡市社会福祉協議会	0796-23-2573
	養父市社会福祉協議会	079-662-0160
	朝来市社会福祉協議会	079-676-5213
	香美町社会福祉協議会	0796-39-2050
丹 波	新温泉町社会福祉協議会	0796-99-2488
	篠山市社会福祉協議会	079-590-1112
	丹波市社会福祉協議会	0795-82-4631
淡 路	洲本市社会福祉協議会	0799-26-0022
	南あわじ市社会福祉協議会	0799-44-3007
	淡路市社会福祉協議会	0799-62-5214



マスコットキャラクター
ふわぼん

“こうべ”の社会福祉協議会がめざす方向性

地域福祉を「拓く」

歴史と伝統ある民間組織としての自主性・専門性を発揮し、市民の多様な福祉課題を解決につなぐよう、市民、地域団体、社会福祉に関わりのある法人・機関、行政関係者などの参画・協力を得ながら、先導的に切り開く役割を担います。



地域福祉を「つなぐ」



総合性・専門性を発揮し、あらゆる人々が関わって地域福祉を進めていくよう、ネットワークづくりやコーディネイト機能を発揮し、推進・支援する役割を担います。

地域福祉を「支える」

公共性・専門性を発揮し、セーフティネットの視点に立って事業を実施するとともに、市全体の福祉サービスのレベルアップを支援する役割を担います。



今までも これからも 地域に寄り添い続けます

“こうべ”の社協は、行政と密接に連携・協働しながら、住民とともに地域の実情に応じた「地域づくり」の支援を行ってきました。

市社協の全市的な調整力と区社協の専門職員の総合力を更に高め、市社協と区社協の連携と役割分担により、地域における住民中心の支え合いの仕組みづくりを進めていきます。

社協名	電話番号
神戸市東灘区社会福祉協議会	078-841-4131
神戸市灘区社会福祉協議会	078-843-7001
神戸市中央区社会福祉協議会	078-232-4411
神戸市兵庫区社会福祉協議会	078-511-2111
神戸市北区社会福祉協議会	078-593-1111
神戸市長田区社会福祉協議会	078-579-2311
神戸市須磨区社会福祉協議会	078-731-4341
神戸市垂水区社会福祉協議会	078-708-5151
神戸市西区社会福祉協議会	078-929-0001

たすけあいの輪が広がる地域づくり

地域の社会的課題・暮らしの課題の発掘・解決を進めるために

17ブロック・8地区活動本部のエリア体制で、地域のニーズをよりきめ細かく把握して事業・活動の取り組みを推進し、行政や地域諸団体との連携・協力を強めます。



行政などとの連携 (2017(平成29)年4月1日現在)

高齢者見守りに関する協定

協定締結

兵庫県	2013年 8月28日	新温泉町	2014年 3月10日
宝塚市	2011年 2月 1日	川西市	2014年 9月 7日
神戸市	2011年10月28日	大阪市東淀川区	2014年 9月24日
豊岡市	2012年 3月 1日	小野市	2014年10月 8日
西宮市	2012年 4月 1日	淡路市	2014年12月10日
伊丹市	2012年 5月25日	池田市	2014年12月15日
芦屋市	2012年10月 1日	神河町	2014年12月18日
尼崎市	2012年11月 1日	大阪市淀川区	2014年12月19日
篠山市	2013年 3月 1日	香美町	2014年12月22日
三田市	2013年 4月 1日	大阪市西淀川区	2015年 3月11日
加西市	2013年 4月16日	赤穂市	2015年 4月22日
養父市	2013年 5月10日	宍粟市	2015年12月17日
南あわじ市	2013年 5月13日	明石市	2016年 3月 1日
たつの市	2013年 5月22日	洲本市	2016年 3月22日
丹波市	2013年 5月23日	加古川市	2016年 4月21日
三木市	2013年10月28日	稲美町	2016年 9月 1日
太子町	2013年10月30日	福崎町	2016年 9月30日
朝来市	2014年 2月20日		

ネットワーク (地域全体で見守る) 参加型

豊中市	2010年 2月28日
豊能町	2013年11月22日
箕面市	2014年 9月 4日
吹田市	2014年10月 6日
西脇市	2014年10月31日
姫路市	2015年 6月24日
上郡町	2015年 7月22日
相生市	2016年 4月 1日
京丹後市	2016年 5月12日
佐用町	2016年 6月10日
加東市	2016年 7月22日
多可町	2016年 7月22日
播磨町	2016年 9月 1日
摂津市	2016年11月25日
高槻市	2016年11月25日
市川町	2016年12月 8日

高齢者の消費生活情報啓発に関する協定

神戸市	2012年 5月 9日
宝塚市	
伊丹市	2013年 3月21日
尼崎市	
芦屋市	2014年 1月20日
西宮市	
明石市	2015年10月27日

その他 市民福祉社会への協働憲章

兵庫県社協	1999年 1月14日
神戸市社協	
地域支えあい体制づくりに関する連携協定	
小野市	2017年 2月28日

緊急時における生活物資確保に関する協定

神戸市	1980年 3月28日	稲美町	1999年 4月 1日
尼崎市	1992年 6月 1日	姫路市	1999年 6月 1日
加古川市	1995年11月30日	小野市	2000年11月14日
高砂市	1996年 2月28日	夢前町	2001年 1月31日 (*2006年3月27日合併し姫路市)
明石市	1996年 3月19日	上郡町	2002年 6月14日
播磨町	1996年 4月 1日	豊岡市	2002年 7月 3日
西宮市	1996年 4月 1日	加西市	2003年 4月14日
芦屋市	1996年 4月 4日	丹波市	2005年 5月11日
三木市	1996年 4月18日	豊能町	2013年 9月26日
柏原町	1996年 8月 7日 (*2004年11月1日合併し丹波市)	養父市	2014年 2月 5日
宝塚市	1996年 8月30日	宍粟市	2014年 3月18日
赤穂市	1996年10月24日	南あわじ市	2014年 9月11日
三田市	1996年12月18日	淡路市	2014年12月10日
吉川町	1997年 2月19日 (*2005年10月24日合併し三木市)	神河町	2015年 3月25日
伊丹市	1997年 4月 1日	香美町	2015年 4月 1日
相生市	1998年 6月30日	島本町	2015年 8月21日
川西市	1998年 9月16日	佐用町	2015年11月 4日
たつの市	1998年12月 1日	猪名川町	2015年12月11日
西脇市	1998年12月 1日	洲本市	2016年 3月22日
太子町	1999年 3月24日	朝来市	2016年 8月 8日



コープこうべキャラクター「コピー」



地域見守り活動の経緯 (概略)

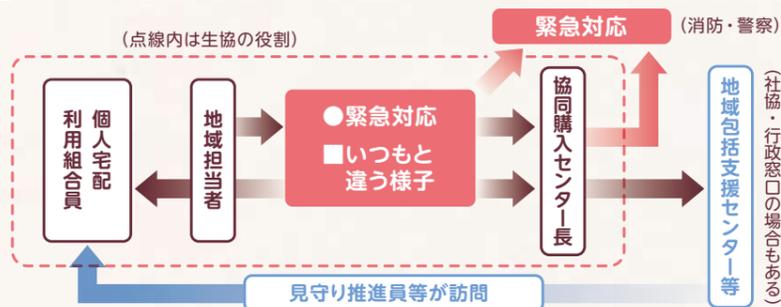
1960年代後半	市町村や社協による「友愛訪問活動」の取り組み始まる。
1995(平成7)年	阪神・淡路大震災を契機として、神戸市で孤独死・独居死防止等を目的として仮設住宅への「生活援助員」派遣がスタート。
2007(平成19)年	厚生労働省「孤立死ゼロ・モデル事業の実施について」
2010(平成22)年	厚生労働省「安心生活創造事業」モデル事業開始 (有償ボランティア等の地域見守り推進員による定期訪問活動を推進。同時に新聞販売店・生協などの戸別訪問を伴う「地域事業者」も見守り活動の主体とした取り組みが広がる。)

生協の地域見守り活動への取り組み経緯 (概略)

※生協の「宅配事業」では「地域見守り活動」の開始以前から、定期訪問時にさまざまな見守り事例が存在。「配食サービス」、「暮らしの助け合い」等の活動・事業の中での気づきの事例も増加している。

2007(平成19)年	こうち生協 県・民児協と「地域の見守り活動に関する協定」締結 (全国の生協初)
2010(平成22)年	大阪北生協 (現:大阪北地区)豊中市社協「ひとり暮らし応援事業者ネットワーク」に参加 コープこうべ 神戸市東灘区「御影北部地区における地域の見守り活動に関する協力確認書」締結
2011(平成23)年	コープこうべ 神戸市東灘区⇒神戸市「協力事業者による高齢者見守り事業に関する協定」 宝塚市「見守り支援に関する協力確認書」締結
2013(平成25)年	コープこうべ 兵庫県、県社協、民児協「兵庫県地域見守りネットワーク応援協定」締結
2017(平成29)年 4月現在	コープこうべ 兵庫県および事業エリア内の35市12町3区で協定等を締結。 全国生協の状況 90地域購買生協、4職域生協が992市区町村、28都道府県、42社協との協定等を締結。

生協の見守り活動による通報・連絡の基本的な流れ



コープこうべでの見守りの事例

2012~2016年度の
5年間で75件
年平均約15件
の見守り事例
報告

地域担当者が個人宅配の配達で伺ったところ、普段は在宅されておられる80歳台の一人暮らしの組合員の応答がなくラジオの音だけが聞こえる状況。見守り協定に基づいてM市の福祉課に連絡し、市から連絡を受けた民生委員が娘さんの自宅に連絡し家族が急行した。体調不良でベッドから起き上がれない状態だった組合員を発見。

配達途中にご自宅までの帰り道がわからなくなり困っている組合員を発見。自宅まで送り、N市の「高齢者あんしん窓口」に連絡。

前日の夕食宅配がそのままになっているのを見発見。応答がないためマンション管理会社に連絡し2日間ベッドと壁の間に挟まれている状態で見発見・救出。

連携事例の普及に向けて

本事例集で挙げた取り組みは、兵庫県内における連携事例の一部です。今後、同様の取り組みが、各地域の実情に応じて、それぞれの地域の方法や活動主体によって取り組まれることが望めます。今回取り上げた事例を通じて、共通したポイントもいくつか見えてきました。これらの視点を意識しながら、「支え合い社会」づくりに向けた取り組みを地域に広げていきましょう！

まずは地域の声やニーズから

地域におけるそれぞれの連携事例では、「買い物支援の必要性」「子どもの貧困問題」「高齢者の居場所づくり」など、身近な地域の中で住民が感じている生活課題がその出発点にありました。常に生活者としての視点で、地域のニーズに対するアンテナを張っておくことが、活動に向けた第一歩となります。

担い手の主体的な参加を促すしかけづくり

地域で気づいたニーズを具体的な活動に展開していくためには、活動に参加する人たちの気づきや共感を確かなものにするしかけが必要です。

事例では、「ふれあい配食研究会」「高齢者を知る講座」など、活動に先行した学習・研究の場づくりが見られました。把握された課題を地域全体の課題として関係者が認識し、主体的な活動につなげていく福祉学習のプロセスが大切となります。

地域住民の主体性を尊重した関わりを

身近な生活課題の中には、住民同士の支え合いだけでは解決が難しい課題も少なくありません。地域の住民と支援者が連携し、住民の支え合いを補完する体制があることで、住民は安心して主体的に活動に取り組むことができます。そのためには、地域住民の皆さんが「私たちの課題」として活動を進めていけるような、「住民主体」の視点が支援者には求められます。

多様な団体・社会資源間のつながりを育む

生活課題が複雑化・多様化する中で、これからの地域づくりは多様な団体間の理解・協力の体制づくりが欠かせません。民生委員・児童委員や社協、福祉専門職や事業者など、多様な関係者が地域の中で顔の見える関係を育みながら、みんなで活動を進めていく視点が大切です。

生協や事業者の持つマンパワーやサービス・拠点も地域の社会資源としての価値を持っています。

活動の継続・発展に向けて

サークルの組織化や同様の活動を進めるグループ間の連絡会づくりなどを通じて、活動を一過性のもので終わらせないためのしかけも必要です。

また、活動の意義を外に伝える広報活動を意識しておくことも大切です。幅広い担い手の参加を促すとともに、活動の成果が知られることで、「つどい場」（西宮市）のように行政による支援につながる可能性もあります。

みんなでひろげる ちいきのわ

地域連携事例集

平成29年6月発行

発行・編集

社会福祉法人 兵庫県社会福祉協議会
社会福祉法人 神戸市社会福祉協議会
生活協同組合 コープこうべ

みんなでひろげる
ちいきのわ

地域連携事例集

